

MATERIA

ガイダンスマニュアル

マテリア カラーラインナップ

マテリアの考え方

マテリアは、髪のアnderカラーの特性と色の個性を最大限にいかした色設定になっています。

ヘアカラー = Anderカラー + 薬剤色

Anderカラーとは

髪の色は明るくなると色みも変化します。この髪の色みのことを「Anderカラー」と呼びます。Anderカラーは赤紫～赤～オレンジ～黄色へと髪が明るくなるとともに色相が変化します。(右表参照)

MATERIA

全92色 + ライトナー (LT, LT-EX)

主にトーンアップに使用します。各色番号の数字は明るさ(レベル)を示し、黒髪からオキシ6%を使用して施術した場合のリフト力をあらわしています。それぞれの色みは、同レベルのAnderカラーに染めた場合を基本に設定されています。

MATERIA μ (ローアルカリタイプ)

全61色 + クリア

主にトーンダウンに使用します。リフト力はほとんどありません。各色番号の数字は同番号のマテリアと同じ色濃さをあらわしています。

*右の表中では ■ で表記しています。

<トーンダウンの目安>

- 10 μ シェード ——— 1レベル前後
- 8 μ シェード ——— 1～2レベル
- 6 μ シェード ——— 3～4レベル

MATERIA

- 2-10 レベル、LT ——— マテリア (第1剤) **1+1** マテリア オキシW (第2剤)
- 12-14 レベル ——— マテリア (第1剤) **1+2** マテリア オキシW (第2剤)
- メイクアップライン、LT-EX ——— マテリア (第1剤) **1+3** マテリア オキシW (第2剤)

MATERIA μ

- マテリアμ (第1剤) **1+1** マテリア オキシW 3% (第2剤)

control	Anderカラー	Brown Shade			Texture		
		CB Cool Brown	B Brown	WB Warm Brown	PBe Pink Beige	OBe Orange Beige	Be Beige
LT-EX	Make-up Line 1+3						M-Be
	YO	14 1+2 CB-14					
		13 CB-14+CB-12 1:1					
	12 1+2	CB-12	B-10+LT-EX 2:1	WB-10+LT-EX 2:1	PBe-12	OBe-12	Be-12
	O	11 CB-12+CB-10 1:1	B-10+LT-EX 3:1	WB-10+LT-EX 3:1	PBe-12+PBe-10 1:1	OBe-12+OBe-10 1:1	Be-12+Be-10 1:1
		10 CB-10 ■	B-10 ■	WB-10 ■	PBe-10 ■	OBe-10 ■	Be-10 ■
		9 CB-10 _μ +CB-8 _μ 2:1 CB-9	B-9 ■	WB-9 ■	PBe-10+PBe-8 3:1	OBe-10+OBe-8 2:1	Be-10+Be-8 2:1
	RO	8 CB-8 ■	B-8 ■	WB-8 ■	PBe-8 ■	OBe-8 ■	Be-8 ■
		7 CB-8 _μ +CB-6 _μ 3:1 CB-7	B-7 ■	WB-7 ■	PBe-8+PBe-6 2:1	OBe-8+OBe-6 2:1	Be-8+Be-6 3:1
		6 CB-6 ■	B-6 ■	WB-6 ■	PBe-6 ■	OBe-6 ■	Be-6 ■
	R	5 CB-5 ■	B-5 ■	WB-5 ■			
		4 CB-5+CB-3 2:3		WB-5+WB-3 2:3			
	RV	3 CB-3		WB-3			
		2					
CLR μ ■	mix-tone						

*このカラーチャートは、マテリアを白毛に染めた時のイメージです。*印刷物のため、実際の色みと異なる場合があります。

標準混合比率

Brown Shade

ブラウンシェード <22色 / μ 16色>

溶け込むようになじむ、自然な髪色を表現。

Shade			Primary Shade									
ABe	Pe	MT	R	K	O	G	M	L	A	CA	V	P
Ash Beige	Pearl	Metallic	Red	Copper	Orange	Gold	Matt	Lime	Ash	Cobalt Ash	Violet	Pink
		M-MT	M-R		M-O					M-CA	M-RV	M-P
ABe-12	Pe-12	MT-10+LT-EX 1:1	R-10+LT-EX 1:1	K-10+LT-EX 1:1	O-12	G-12	M-12	L-12	A-12	CA-12	V-10+LT-EX 1:1	P-12
ABe-12+ABe-10 1:1	Pe-12+Pe-10 1:1	MT-10+LT-EX 2:1	R-10+LT-EX 2:1	K-10+LT-EX 2:1	O-12+O-10 1:1	G-12+G-10 1:1	M-12+M-10 1:1	L-12+L-10 1:1	A-12+A-10 1:1	CA-12+CA-10 1:1	V-10+LT-EX 2:1	P-12+P-10 1:1
ABe-10	Pe-10	MT-10	R-10	K-10	O-10	G-10	M-10	L-10	A-10	CA-10	V-10	P-10
ABe-10+ABe-8 2:1	Pe-10+Pe-8 2:1	MT-10+MT-8 2:1	R-10+R-8 3:1	K-10+K-8 3:1	O-10+O-8 2:1	G-10+G-8 2:1	M-10+M-8 2:1	L-10+L-8 2:1	A-10+A-8 2:1	CA-10+CA-8 2:1	V-10+V-8 2:1	P-10+P-8 3:1
ABe-8	Pe-8	MT-8	R-8	K-8	O-8	G-8	M-8	L-8	A-8	CA-8	V-8	P-8
ABe-8+ABe-6 3:1		MT-8+MT-6 3:1	R-8+R-6 2:1	K-8+K-6 2:1	O-8+O-6 2:1		M-8+M-6 3:1		A-8+A-6 3:1	CA-8+CA-6 3:1	V-8+V-6 1:1	P-8+P-6 2:1
ABe-6		MT-6	R-6	K-6	O-6		M-6		A-6	CA-6	V-6	P-6
			R-6+R-4 1:1								V-6+V-4 1:1	
			R-4								V-4	
									BB			
							M-mix		A-mix			
			R-mix									

■ マテリアの色番号表示: (例)CB-3→CB/色調 3/明度 ■メイクアップラインの左側のMはライン名の頭文字をあらわしています。■LT・LT-EXの下部は5レベル毛に染めた時のリフト力をあらわしています。

Texture Shade

テクスチャーシェード <22色 / μ 17色>

ふんわり、さらさら、つやつやなど、ニュアンスカラーで髪質感を自在に表現。

Primary Shade

プライマリーシェード <41色 / μ 28色>

はっとするほど絶妙なバランスの高彩度で、色の個性を的確に表現。

Make-up Line

メイクアップライン <7色>

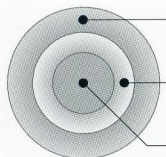
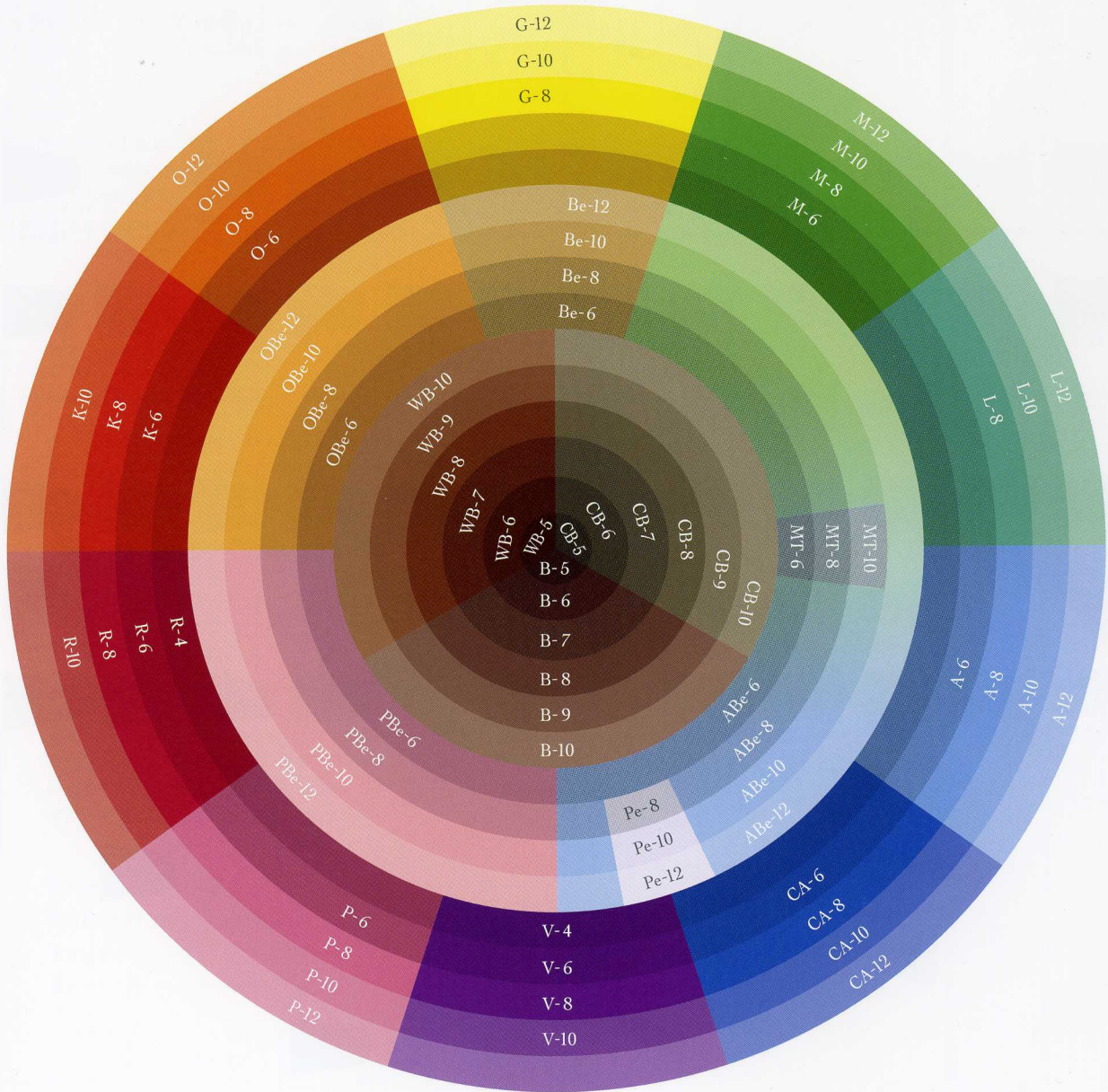
シングルプロセスでしっかりとした色みを表現する、フォイルワーク専用色。

MATERIA Shade Character

マテリア シェードキャラクター

マテリア カラーマップ

色相環であらわすマテリアの薬剤色のイメージです。



● プライマリーシェード …… 色相のゆがみがなくそろっているので、縦のラインのミックスで色相が変わりません。

● テクスチャーシェード …… アンダーカラーの変化に沿って色相も変化しているので、レベルに合った質感が表現されます。

● ブラウンシェード …… アンダーカラーの変化に沿って、色相が変化します。

カラーガイド

マテリアの色みの特徴

Brown Shade / ブラウンシェード

CB 赤みのない、シャープな印象の寒色系ブラウン。アンダーカラーの補色の変化に沿って、マットみ〜アッシュみに色相が変化します。
アンダーカラーの赤みを抑えて、すっきりとした髪色に。
クールブラウン

B 赤みや緑みなど色みの偏りがなく、ナチュラルな印象のブラウン。アンダーカラーの黄みや赤みをほどよく抑えて、深みのある髪色に。
ブラウン

WB 赤みのある、落ち着いた印象の暖色系ブラウン。アンダーカラーの変化に沿って、レッドみ〜オレンジみに色相が変化します。
アンダーカラーに赤みを補い、コクのある髪色に。
ウォームブラウン

Texture Shade / テクスチャーシェード

PBe かわいらしいピンクのニュアンスがプラスされたベージュ系で、フェミニンな印象に。うるおいのあるツヤやかな質感を表現。
ピンクベージュ

OBe 明るいオレンジニュアンスのベージュ系で、キュートな印象に。ふんわり軽やかな質感を表現。
オレンジベージュ

ABe アッシュのニュアンスのあるベージュ系で、透明感のあるすっきりとした印象に。さらっとした軽やかな質感を表現。
アッシュベージュ

Be やさしいベージュ系で、ナチュラル＆フェミニンな印象に。透明感のあるやわらかい質感を表現。
ベージュ

Pe ほんのりと黄みを抑え、パールのようなやわらかいツヤのある髪に。
パール

MT 髪の色みをいかし、メタリック感のあるシャープなツヤのある髪に。
メタリック

Primary Shade / プライマリーシェード

R 黄みのある朱赤系。華やかな印象に。
レッド

K コクのあるカッパー系。エレガントで落ち着いた印象に。
カッパー

O キャロットのような色みのオレンジ。元気でカジュアルな印象に。
オレンジ

G すっきりとしたゴールド系。明るく華やかな印象に。
ゴールド

M 黄みのニュアンスのあるマット系。赤みを抑えながらクリアで透明感のある髪色を表現し、ヘルシーな印象に。
マット

L クリアなアッシュマット系。ほどよく黄みや赤みを抑えて透明感と軽さを表現し、フレッシュな印象に。
ライム

A 透明感のあるアッシュ系。
赤みを抑えた自然なアッシュブラウンで、シックな印象に。
アッシュ

CA 青みを強調したアッシュ系。しっかりと赤みを抑えてグレイッシュな髪色を表現し、シャープな印象に。
コバルトアッシュ

V 色みの偏りのないバイオレット。髪の色みをいかにしてコクとツヤのある髪色を表現し、優雅で女性らしい印象に。
バイオレット

P やや青みよりのピンク。
かわいらしいフェミニンな印象に。
ピンク

マテリアのコントロール

アンダーカラーのコントロール

毛髪の状態に合わせて、アンダーカラーを補正していきます。



CB クールブラウンは、アンダーカラーの赤みを抑えることができます。

トーンアップの場合 → メラニンの赤みを抑えていきます。

トーンダウンの場合 → 赤みが強く残っているときに使用します。

WB ウォームブラウンは、アンダーカラーの赤みを補うことができます。

トーンアップの場合 → メラニンの赤みを補っていきます。

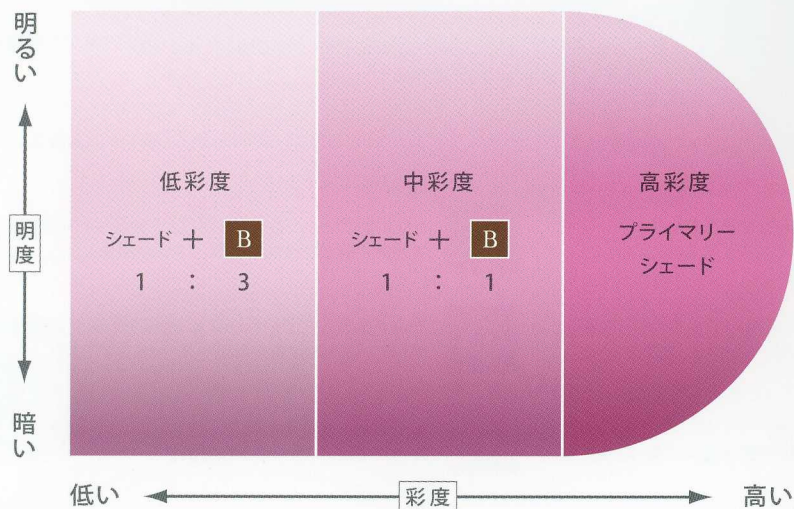
トーンダウンの場合 → 希望の明るさのアンダーカラーを補っていきます。

トーンのコントロール

求める色みに合わせて、トーンを調整していきます。



B ブラウンをミックスすることで、彩度を抑えることができます。

<ブラウンによる彩度の変化>



テクスチャー（ツヤ感）のコントロール

各シェードとの組み合わせで、ツヤ感をコントロールできます。

<シェード>  + <パール>  =

透明感のある、
ソフトなツヤを表現します。

Sheer / シアー

同レベルのシェードとのミックスの目安

3 : 1

<シェード>  + <メタリック>  =

光沢感のある、シャープな
ツヤを表現します。

Shine / シヤイン

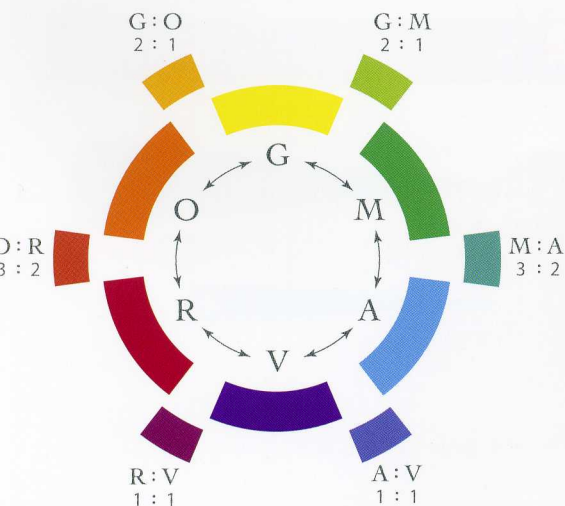
同レベルのシェードとのミックスの目安

3 : 1

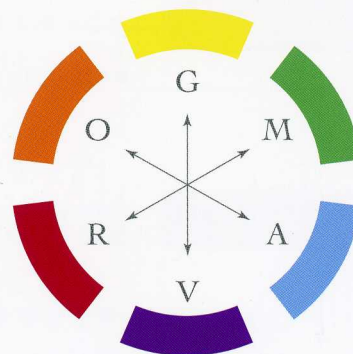
シェードのコントロール

プライマリーカラーを活用して、様々な色みのコントロールができます。

同レベル・同彩度に設定されているので、
色相環の向かい合う色同士をミックスすることで、
中間の色みをつくることができます。



色相環の向かい合う色同士（補色）を
ミックスすることで、お互いの色みを打ち消します。



<染料のキャンセルの目安>

- 黄みをキャンセル ———— 希望色 **7:3** 補色 **V**
- オレンジみをキャンセル ———— 希望色 **6:4** 補色 **A**
- 赤みをキャンセル ———— 希望色 **1:9** 補色 **M**

マテリア・マテリアμ の使用方法

色選び～塗布までのプロセス

マテリアを使用した、基本的なヘアカラーのプロセスです。

カウンセリング

お客様のイメージする仕上がり(色・明るさなど)を確認します。
毛髪診断により、新生部の髪質・既染部の状態をチェックします。(P9を参照)

- お客様へ施術の時間と料金の目安などを伝えましょう。

薬剤の選定

髪の状態(明るさ・ダメージ)・仕上がりイメージに合わせて、
薬剤を選びます。

- トーンアップの場合 — 新生部・既染部ともにマテリア+マテリア オキシW 6%を使用します。
- トーンダウンの場合 — 既染部にはマテリアμ+マテリア オキシW 3%を使用します。

48時間前に
パッチテストを
行います。

技術の選定

髪の状態と仕上がり色を考えて、
プロセスやテクニックを決めます。

- ダメージの状態に応じてプレ処理を行います。(P10を参照)

薬剤の調合

1剤と2剤を混合します。

	1剤と2剤の混合比	放置時間の目安
マテリア 2-10レベル、LT	1 : 1	20～30分
マテリア 12-14レベル	1 : 2	20～30分
マテリア LT-EX メイクアップライン	1 : 3	20～30分
マテリアμ	1 : 1 (3%)	15～20分

薬剤の塗布

カラー剤を塗布し、放置します。

- なるべく頭皮につかないように塗布しましょう。

カラーチェック

トップ・サイド・バックなど、2～3ヶ所からストランドをとり、
薬剤をふきとってからチェックします。

アフターシャンプー & トリートメント

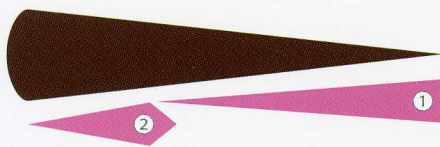
ていねいに洗い流し、
シャンプー&トリートメント(イオ シリーズ)をします。

塗布手順

毛髪の状態や求める仕上がりに応じて、塗布の順番を変えていきましょう。

Virgin Hair

バージン毛の場合

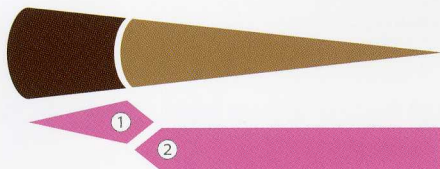


マテリアを使用します。

- ① 中間～毛先に塗布し、10分間放置します。
●明度の上がり具合を確認した上で、根元の塗布に移りましょう。
- ② 根元に塗布し、20～30分放置します。

Retouch — Tone Up

リタッチ(トーンアップ)の場合

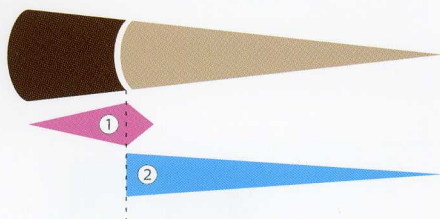


マテリアを使用します。

- ① 根元新生部に塗布し、5～15分放置します。
 - ② 既染部に塗布し、15～20分放置します。
- 根元新生部が3cm以上の場合、2回に分けて(ツータッチ)塗布します。
 - 染料が強が残っている場合は、既染部から先に塗布します。

Retouch — Tone Down

リタッチ(トーンダウン)の場合



根元はマテリア、
中間～毛先はマテリアμを使用します。

- ① 根元新生部にマテリアを塗布し、5～15分放置します。
 - ② 既染部にマテリアμを塗布し、15～20分放置します。
- 染めムラを防止するためにも、新生部の明度の上がり具合を確認した上で、既染部の塗布に移りましょう。

毛髪診断のポイント

新生部の確認

髪質をチェックします。仕上がりの傾向に合わせて、薬剤や技術・プロセスを選びます。

髪質の特徴		仕上がりの傾向
太い・硬い 撥水性・暗い	→	赤みが出やすい 明るくなりにくい
細い・軟らかい 吸水性・明るい	→	黄みが出やすい 明るくなりやすい

既染部の確認

現在の明度・施術履歴・ダメージの度合いなどをチェックします。

現在の明度

レベルスケールを使ってチェックします。

カラー履歴

ストランドをとり、メラニン色素や残留ティント(染料)を透かしてチェックします。

●黒染めをしている場合は、必ずストランドテストを行います。

パーマの有無

ウェットにして毛髪の状態をチェック。縮毛矯正やホット系パーマをしている場合は、明度が上がりすぎたり、逆に上がらなかったりします。

●縮毛矯正やホット系パーマなどで熱処理された部位は、されていない部位と発色傾向が異なることが多いので、損傷度合いに関わらず、必ず事前にストランドテストを行きましょう。

ダメージの状態

部分や程度をチェックします。(P10を参照)

Point

ストランドテストの手順

ライトナーEXまたはプラチナブリーチ+マテリア オキシW 6%
もしくは使用する予定の薬剤で確認します。

- 1cm角の毛束をとり、薬剤を塗布します。
- 10～15分程度放置した後、薬剤をふきとり、毛束の状態を確認します。



髪の表面に出ない部分で行いましょう。

ダメージによる染着傾向と対策

施術履歴をしっかりと確認し、ダメージの度合いにより、どのような発色傾向になるのかを予測しましょう。

	← 中損傷	強損傷	重損傷 →
履歴	パーマ・カラーの単独使用	パーマ+カラー連用・ブリーチ	パーマ+カラー連用・ハイブリーチ・縮毛矯正
手触り 外観	 <p>乾燥・バサツキがあり、ツヤがありません。</p>	 <p>乾燥が進み、枝毛・切れ毛が目立ち、ツヤがない。</p>	 <p>乾燥が激しく、毛髪のツヤや弾力が失われている。</p>
明度 (参考)	11~13 Level	14~16 Level	17 Level 以上
発色傾向	比較的安定した発色をする。	求める色が正確に出にくかったり、染まりすぎを起こす場合もある。	色にごって暗く沈み込んだり、逆に染まらなかったり、不安定な染着傾向を示す。
対応の仕方	<p>●プレ処理を行う プロエディット ケアワークス エレメント チャージ(CMC)を使用。</p>	<p style="text-align: center;">事前にストランドテストを行きましょう。</p> <p>●プレ処理を行う プロエディット ケアワークス エレメント チャージ(CMC・NMF)を使用。</p> <p>●中間・毛先の塗布に時間差をつける</p>	<p>●プレ処理を行う プロエディット ケアワークス エレメント チャージ(CMC・NMF・PPT・エレメントフィクス)を使用。</p> <p>●中間・毛先の塗布に時間差をつける</p> <p>●クリアなどで毛先の染まりすぎを防ぐ</p>

既染部のコントロール

ケース事例

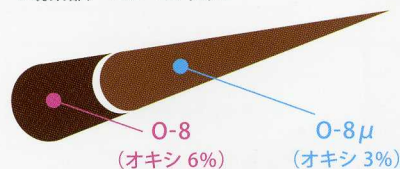
条件の違う毛髪に対してのコントロールの基本方法です。(P12「トーンダウンガイド」を参照)

Case.1 明度差があまりない場合

シェード単品でコントロールします。

既染部の明度が10レベル、希望色が8レベルのオレンジ系の場合

<既染部/10レベル(O)>



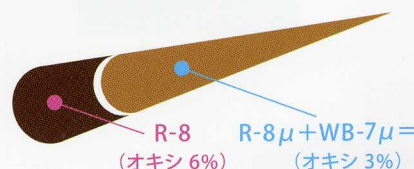
Case.2 明度差がある場合

シェード+WBでアンダーカラーを補いコントロールします。

既染部の明度が12レベル、希望色が8レベルのレッド系の場合



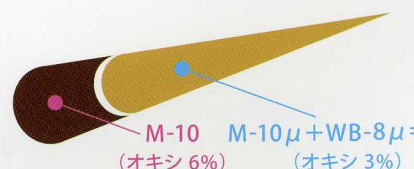
<既染部/12レベル(O)>



既染部の明度が14レベル、希望色が10レベルのマット系の場合



<既染部/14レベル(YO)>



Case.3 高明度毛をコントロールする場合

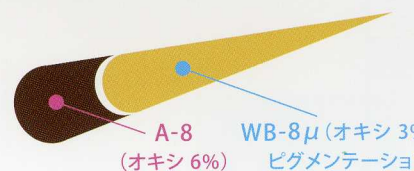
事前にWBでピグメンテーション(プライミング)します。

既染部の明度が16レベル、希望色が8レベルのアッシュ系の場合

<ピグメンテーション>



<既染部/16レベル(Y)>



A-8μ+WB-7μ (オキシ 3%) = 3:1を塗布

既染部のトーンダウンガイド

WBでアンダーカラーを補いながらカラーリングしましょう。

マテリアμを使用したトーンダウン 毛髪へのダメージを抑えたコントロールができます。

※WBはそれぞれにアンダーカラーの色みを帯びています。

O	WB-10μ
RO	WB-9μ WB-8μ
R	WB-6μ WB-5μ

現在の明度

Y	16
YO	14
O	12
RO	10
R	8

		希望の明度						
		O			RO		R	
		12	11	10	9	8	7	6
現在の明度	16	WB-8μ 2:1	WB-8μ 1:1	WB-7μ 2:1	ピグメンテーションを行います。WB-8μで12Levへ			WB-5μ 2:1
	14	WB-10μ 1:1	WB-9μ 2:1	WB-8μ 2:1	WB-7μ 2:1	WB-6μ 3:1	WB-6μ 2:1	WB-5μ 2:1
	12		シエード単品 10レベル	WB-9μ 3:1	WB-8μ 3:1	WB-7μ 3:1	WB-6μ 3:1	WB-5μ 2:1
	10				シエード単品 10レベル	シエード単品 8レベル	シエード単品 6レベル	シエード単品 6レベル
	8	表中の比率=使用するシエード:WBをあらわしています。						シエード単品 8レベル

※使用するシエードや毛髪のダメージ度合いにより多少異なります。

マテリアを使用したトーンダウン 残留ティントや縮毛矯正毛などの染着ムラを軽減します。

※WBはそれぞれにアンダーカラーの色みを帯びています。

O	WB-10
RO	WB-9 WB-8 WB-7
R	WB-6 WB-5

現在の明度

Y	16
YO	14
O	12
RO	10
R	8

		希望の明度						
		O			RO		R	
		12	11	10	9	8	7	6
現在の明度	16	WB-8 2:1	WB-7 2:1	WB-6 3:1	ピグメンテーションを行います。WB-8で12Levへ			WB-5+WB-3 2:1
	14	WB-9 2:1	WB-8 2:1	WB-7 2:1	WB-6 3:1	WB-6 2:1	WB-5 2:1	WB-5+WB-3 2:1
	12		シエード単品 12レベル	WB-8 3:1	WB-7 3:1	WB-6 3:1	WB-5 3:1	WB-5+WB-3 2:1
	10				シエード単品 10レベル	WB-8 3:1	WB-6 3:1	WB-5 2:1
	8	表中の比率=使用するシエード:WBをあらわしています。						シエード単品 8レベル

※使用するシエードや毛髪のダメージ度合いにより多少異なります。

Point

- 既染部の赤みが強く残っている場合は、WBに替えてBを使用します。
- 低明度へコントロールする場合、6レベルのシエードをプラスすることで、しっかりとした色みを表現することができます。

よくある質問

【ラインナップ活用編】

Q. メイクアップラインとはどういう薬剤ですか。

A. メイクアップラインは、約14レベルのリフト力と8レベル色の染料濃度をあわせ持った、フォイルワーク専用剤です。明るさだけでなく色のコントラストによるカラーデザインが、シングルプロセスで表現できます。

Q. ミックストーンを使用する際の目安はどれくらいですか。

A. ミックストーンは強調色としてシェードにミックスして使用しますが、色みやミックスする割合によって明度が変わる場合があります。R-mixは全体の2割程度、M-mix・A-mixは1割未満を目安にシェードとミックスしましょう。

Q. ライトナー・ライトナーEXの特徴を教えてください。

A. ライトナー・ライトナーEXともに染料は入っていません。ライトナーは10レベルのリフト力に設定されています。シェードとミックスする際は、明るさをキープしながら色みを薄めることができます。ライトナーEXは14レベル程度のリフト力があります。

【コントロール編】

Q. マテリアをグレイカラーに使用する際は、どのように色を選べばよいですか。

A. CB-5またはWB-5をベース色にします。白髪の割合やカバーの程度に応じてシェードをミックスします。

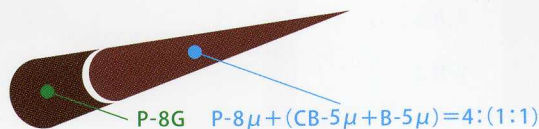
	CB-5またはWB-5	:	6レベル以下の希望シェード
白髪の割合が30%程度の場合	1	:	2
白髪の割合が50%程度の場合	1	:	1

Q. グレイカラーの既染部にマテリアμは使えますか。

A. 白髪の浮きがあまり目立たない場合はそのまま使用します。浮きがやや目立つ場合は、使用シェードにCB-5μ+B-5μ(1:1)*を2:1~1:1の割合でミックスします。かなり浮きが目立つ場合は、新生部と同じ薬剤を使用しましょう。

*使用シェードが6レベル以下の場合は2:1。

既染部が9レベル、希望色が8レベルのピンク系の場合



Q. CBを使ってアンダーカラーをコントロールするのはどんな場合ですか。

A. 赤みの出やすい毛髪にアッシュやマットを表現したい場合など、アンダーカラーの赤みを抑えながら色みを表現したい時にはCBをミックスします。シェード:CB(3:1)を目安にコントロールしましょう。

【技術編】

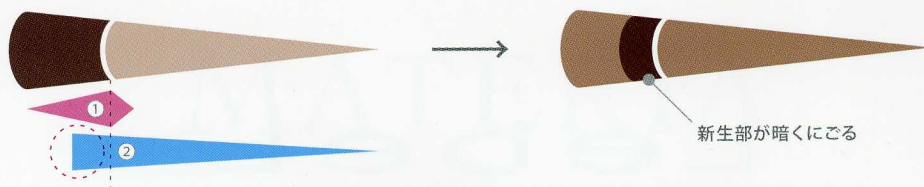
Q. マテリアμを使用してキレイに仕上げるための、塗布のポイントを教えてください。

A. ローアルカリタイプとアルカリタイプの薬剤が重なり合う部分の塗布量バランスが悪いと、発色ムラを起こす場合があります。このような仕上がりのムラを避けるためにも、ディバイディングラインからきっちりと塗り分けるようにしましょう。(P8「リタッチ(トーンダウン)の場合」を参照)

× 既染部にアルカリをオーバーラップしすぎた場合

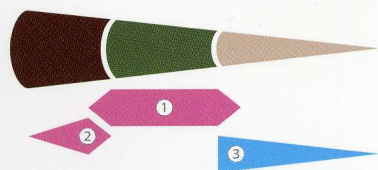


× 新生部にローアルカリをオーバーラップしすぎた場合



Q. 中間に残留ティントが残っています。中間を明るくしながら毛先をトーンダウンするには、どのような手順で行えばよいですか。

A. 残留ティントが残っている中間部にはマテリアを、毛先にはマテリアμを使います。塗布が一番明るくなりにくい中間より行います。



- ① 中間部にマテリアを塗布し、放置します。
- ② 根元にマテリアを塗布し、放置します。
- ③ 毛先にマテリアμを塗布し、放置します。

Q. ホット系パーマ・アイロンストレート・黒染め・色ムラなど、既染部が複雑な状態の場合の対応を教えてください。

A. 毛髪診断後、不安が残る場合はストランドテストを行います。ストランドテストで使用する薬剤は、下記のように大きく2種類に分けられます。リフト度合いや発色ムラを確認したあと、使用する薬剤やプロセスの設定を行いましょう。(ストランドテストの方法は、P9「ストランドテストの手順」を参照)

黒染めや色ムラの場合

→ ライトナー-EXやプラチナブリーチを使用し、明るくなるかどうかを確認。

ホット系パーマやアイロンストレートなど熱変性の場合

→ 希望色を使用し、色みの吸い込み具合や発色状態を確認。

Lebel

ALL YOUR OWN



ISO 14001
認証番号: 0772695

このカタログは環境に配慮した紙ならびに大豆インクを使用しています。
このカタログ掲載の写真、記事等の無断複写・複製・転載を禁じます。
ルベル製品はヘアサロンのアドバイザーのもとご使用いただくヘアプロダクツです。
YY-LC-M-M 1309

ルベル / www.lebel.co.jp
タカラベルモント株式会社

テクニカルサポートセンター 技術や商品の使用方法について
0120-853-854 受付時間 / 10:00~12:00 / 13:00~17:00 (+・日・祭休)